TOHOKU UNIVERSITY HOSPITAL

With

東北大学病院
地域医療連携センター通信

第8号
2008.5

CONTENTS

1…… 地域医療連携協議会を開催しました
2…… 地域医療連携に関するアンケート結果
3…… 重症病棟部の紹介
診療科の名称を変更しました
胃腸外科／肝・胆・膵外科
完全予約制のご案内
4…… 腎・高血圧・内分泌科のご紹介
5…… 腎・高血圧・内分泌科のご紹介
コーヒーブレイク
6…… 栄養管理室の取り組み『粘膜障害食』
高度救命救急センター主催
市民公開講座開催
けんこう情報館に「図書コーナー」オープン
7…… 糖尿病看護認定看護師の紹介
院内探訪！ ～院内学級生徒による
モザイクアート～
8…… 新患日一覧
外来診療の変更について
核医学検査受付窓口の変更について
編集後記

人にやさしく未来をみつめる―

東北大学病院
〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1番1号
TEL 022(717)7000(代)
地域医療連携センター
TEL 022(717)7131(直通)
FAX 022(717)7132

■背景：青葉山桜並木

★ SPECIAL

今年も東北大学病院地域医療連携協議会を開催しました。

去る2月28日、「勝山館」に於いて「東北大学病院地域医療連携協議会」を開催しました。

この協議会は、「東北大学病院に関連する医療機関との連携を密にすることにより、医療機関との機能分化を促進し、あわせて医療の質の向上に寄与する」ことを目的として平成18年2月に設立したもので、3回目となる今回は168名の方が出席しました。

里見病院長の挨拶で開会し、師宮城県医師会会長、永井仙台市医師会副会長からご挨拶をいただき、次に宮城県病院事業管理者の木村時久先生から「宮城県立病院の改革と地域医療の再構築」という演題で大変貴重なご講演を行っていただきました。

その後、本院の特色を他医療機関にPRすることにより、機能分化を促進するということを目的として、当院の荒井副病院長から本院の診療状況、新外来診療棟整備計画の概要と特色、法人化後の病院運営等についての紹介があり、さらに今回初の試みとして、形成外科、血液・免疫科、肝・胆・膵外科、内部障害リハビリテーション科の各科長から、科の特色の紹介を行い、大変好評でした。

最後に、地域医療連携センター佐々木センター長から、地域医療連携センターの活動内容の報告、診療予約受付状況、セカンドオピニオン外来の紹介等が行われました。

引き続きフロアを移し懇親会に入りました。懇談会会場では、本院糖尿病代謝科の檜尾先生を中心としたジャズバンドの演奏が行われる中、本院の先生方と他医療機関の先生方とで、始終和やかに懇親が行われました。

今後も年1回このような会を開催し、情報の共有や意見交換を行っていく予定です。

★ SPECIAL

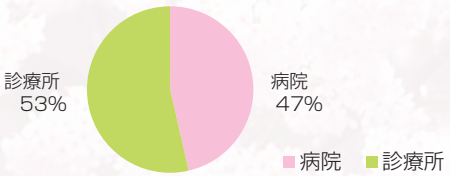
今年も東北大学病院地域医療連携協議会を開催しました。

東北大学病院 地域医療連携に関するアンケート結果

協議会当日出席された他医療機関の先生方にアンケートにご協力いただきました。集計結果は以下のとおりでした。

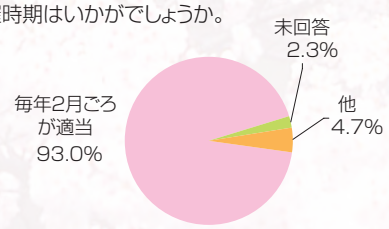
●出席者数/105名(当院参加者を除く)　●回収数/43名　●回収率/41.0%

1. ご所属の医療機関について教えてください。



2. 地域医療連携協議会についてお尋ねします。

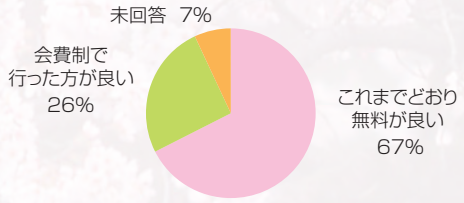
(1)開催時期はいかがでしょうか。



●他のご意見は下記のとおりでした。

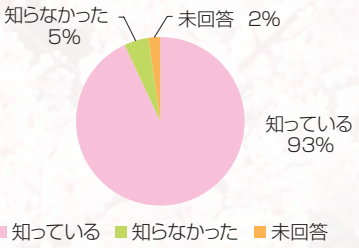
・5月～7月　・5月～6月

(2)会費についてお伺いします。

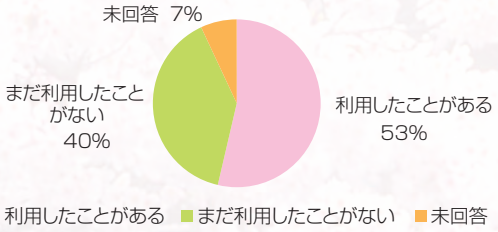


3. 診療予約制度についてお尋ねします。

(1)当院で行っている診療予約制度はご存知ですか。

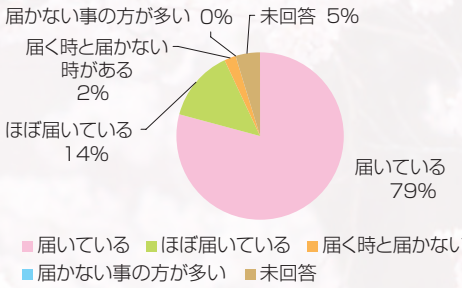


(2)診療予約制度を利用したことがありますか。

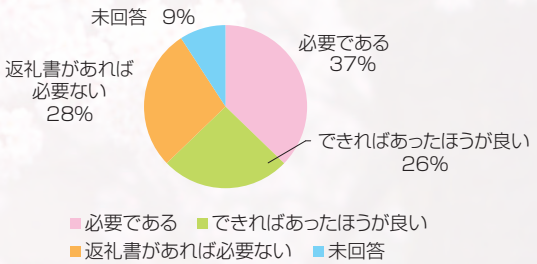


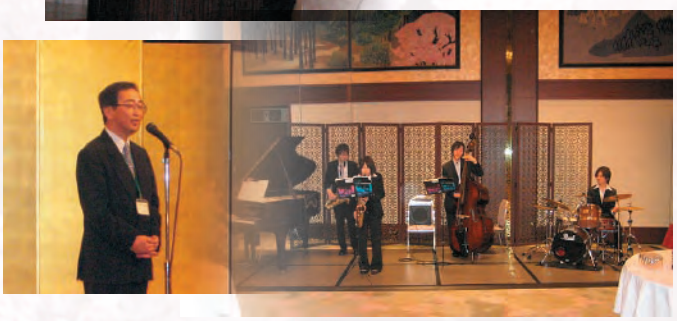
4. 返礼書についてお尋ねします。

(1)当院からの返礼書は適切に届いていますか。



(2)本院では従来の返礼書とは別に、紹介患者さまが受診された旨を自動的にFAX等でお知らせすることを検討しております。この「受診報告書」についてご意見をお伺いします。





SERIES ／診療施設紹介

重症病棟部の紹介

副部長　**星　邦彦**

東北大学病院重症病棟部は日本で初めてできた集中治療室です。現在は、集中治療室（ICU）20床・CCU10床、計30床からなり、呼吸・循環・代謝をはじめとする重篤な急性機能不全の患者に対し、強力かつ集中的に治療を行う病院の共通部門となっています。集中治療専門医を含め、呼吸、循環管理に習熟した医師が24時間体制で勤務しており、また看護師も集中治療エキスパートナースを含むスタッフが昼は1対1、夜は2対1で看護をしております。担当診療科の主治医とICU担当医が毎日診療方針等の意見交換を行い、協力の上より良い医療を目指しています。

ICUに入室するのは、臓器移植術後患者、大侵襲手術後や重症合併症により全身管理が必要な患者、内科・外科系を問わず、呼吸・循環・代謝などの重要臓器の急性臓器不全の症例です。具体的には心臓手術術後、食道癌術後、腹部大動脈瘤術後などが対象になります。年齢層は幅広く、生後数日の新生児から90歳代の高齢者まで入室しています。

私たちの施設で人工呼吸を行う際には、「人工呼吸に起因する合併症を減らし、人工呼吸期間を短くする」という方針を採っています。そのために以下のことを行っています。

1. 肺保護を考えた人工呼吸換気設定
2. 自発呼吸を施行して抜管：プロトコールに従い、抜管を行うと、人工呼吸期間、合併症、再挿管のリスクを減らします。
3. 人工呼吸器関連肺炎（Ventilator Associated Pneumonia:VAP）対策
4. 非侵襲的陽圧人工呼吸（Noninvasive Positive Pressure Ventilation：NPPV）

ICUでは呼吸管理の他にも循環管理、感染対策、栄養管理など多くのことが必要とされます。チームで協力し、最新の知識を取り入れ、より良い医療を目指しています。

INFORMATION

平成20年4月より診療科の名称を変更しました

●当院の以下の診療科の名称が、平成20年4月1日より変更いたしましたのでお知らせいたします。

感染症・呼吸器内科　→　感染症科

科長：服部 俊夫 教授
お問い合わせ　022−717−7766<外来>

遺伝子・呼吸器内科　→　呼吸器内科

科長：貫和 敏博 教授
お問い合わせ　022−717−7875 <外来>

INFORMATION

平成20年5月より胃腸外科／肝・胆・膵外科が完全予約制となりました

肝・胆・膵外科（完全予約制）

●肝臓・胆道・膵臓疾患：**月・金**

胃腸外科（完全予約制）

●胃腸悪性疾患：**水**
●炎症性腸疾患：**木**

ご予約方法:

1. 地域医療連携センター宛に「診療予約申込書」をFAXにてご送付ください。
2. 予約日を調整し15分以内に予約票を返送致しますので、患者さまにお渡し願います。

※「診療予約申込書」はHPからダウンロードできます。また、お電話を頂ければFAXでお送り致します。

SERIES ／診療科紹介

腎・高血圧・内分泌科のご紹介

科長　伊藤 貞嘉

腎・高血圧・内分泌科はその名の示すとおり、あらゆる腎疾患、高血圧及び内分泌疾患の治療に当たっています。これらの疾患は、いずれも初期には無症状であることが多く、また、症状があったとしても不定あるいは変動することが多いため、正しい診断がなされないことがしばしばです。また、どの疾患も決して頻度は少なくありません。 むしろ身近な病気と言えますが、その内容が正しく理解されていない場合があります。 また、最近、「慢性腎臓病（Chronic Kidney Disease: CKD）」が注目を浴びています。中等度の腎機能の低下や尿蛋白があると脳梗塞や心筋梗塞になりやすいことが明らかになったからです。厚生労働省も「CKDは国民の健康の脅威である」との認識で全国規模のキャンペーンを行っています。腎臓病は以前には不治の病と考えられていましたが、最近は早期であれば治すことが出来ます。また、高血圧や内分泌疾患にも治癒可能なものがあります。我々の科には、腎臓、透析、高血圧、内分泌に関する専門の医師がいますが、それぞれの専門性を活かしながら、お互いに協力して診療に当たっています。また、院内では血液浄化療法部とも協力し、保存期腎不全から慢性透析までの一貫した診療を行っています。

「腎臓疾患」：

あらゆる種類の腎疾患の診断治療と腎不全の進行を抑制するための治療を行っています。当科では病理部と合同で宮城県全域及び近隣の県で施行された腎生検の相当数について病理組織診断を行っており、その総数は年間800-900例、昭和30年代からの累積は２万１千例を超えており、この数は単独施設として国内トップクラスであると同時に世界でも有数と思われます。リポ蛋白糸球体症（図１）のような難しい疾患を含めてほとんどすべての腎疾患を経験しており、治療経験も豊富です。 診断にあたっては、光顕のみならず、免疫染色・電顕診断を全例に行っており、さらに必要に応じて各種特殊染色を行っています。腎疾患の中で最も頻度が多いIgA腎症に対しては、腎生検の結果を踏まえながら扁桃摘出＋ステロイドパルス療法を積極的に行っています。末期腎不全に対しては血液浄化療法部とタイアップして血液透析導入や維持透析の管理を行っていますが、巣状糸球体硬化症などの難治性ネフローゼ症候群・ループス腎炎・血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）・溶血性尿毒症症候群（HUS）・血球貪食症候群・多臓器不全などの病態に対しても、LDL吸着・血漿交換・持続的血液濾過などの血液浄化療法を積極的治療の一環として行っています。

図１：リポ蛋白糸球体症

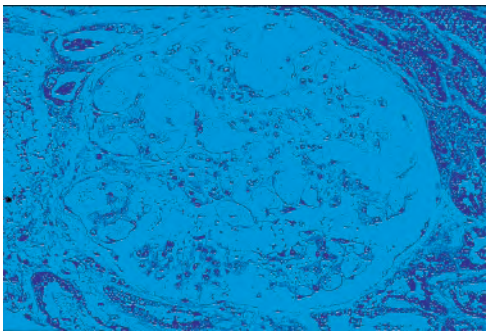
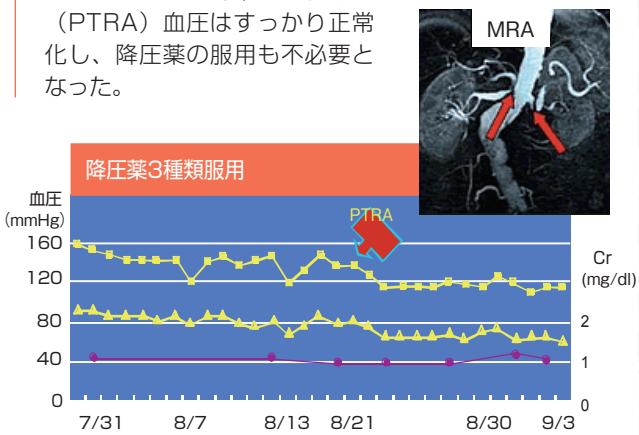


図2：腎血管性高血圧症

77歳の男性が高血圧のため眼底出血を起こした。原因を調べると、腎臓の動脈が両方ともに細くなっていた（腎血管性高血圧）。それをカテーテルで広げてやると（PTRA）血圧はすっかり正常化し、降圧薬の服用も不必要となった。



「高血圧」：

高血圧の診断・治療、悪性高血圧、臓器障害を伴う高血圧の診療等を行っています。当科は以前から多くの二次性高血圧の診断・治療を行ってきています。レニン・アンジオテンシン系の関与する腎血管性高血圧は、基礎・臨床ともに教室の主要研究テーマのひとつであり、全国の班研究を組織した実績もあります。超音波ドプラに熟練し、また、放射線科との連携により、経皮的血行再建術などで、優れた治療実績を残しています（図２）。降圧薬の作用機序や特性を活かした降圧療法、様々な合併症を有した重症高血圧や悪性高血圧の診断治療においては国内トップクラスの成績であります。良好な血圧管理による心血管病の発症予防のために地域に貢献しており、実際、健診データを見ますと、宮城県の高血圧診療は全国平均と比べて極めて優れているのが分かります。

「内分泌疾患」：

視床下部・下垂体・副腎・甲状腺疾患等、全ての内分泌疾患の診療を行っています。原発性アルドステロン症（PA）に対しては、当科・放射線診断科・泌尿器科・病理部との緊密な連携のもと、「PA診療拠点」を目指して、一貫した診療を行っています。PAでは内分泌検査の後に副腎静脈サンプリング（AVS）による局在診断が行われます。その結果に基づき鏡視下副腎手術が施行された例では、高血圧症が完治・軽快しており、また、病理学的検討によりPAの最終診断が行われています（図３）。当院における2007年度の

AVS実施症例数は75例に及び、泌尿器科における年間副腎手術件数60例と併せ、全国随一の実績を誇ります。また、サブクリニカルクッシング病や先端巨大症などの下垂体疾患に加え、成人成長ホルモン（GH）分泌不全症は40例を超える補充療法の実績を有しています。下垂体機能低下症における患者様のQOL向上を目指しています。

甲状腺疾患では、東北以北の大学病院内科で唯一の日本甲状腺学会認定専門医施設として、甲状腺機能異常（亢進症、低下症）及び良性の結節性甲状腺腫の診療を行っています。中でも妊娠・授乳期の甲状腺機能異常患者の管理や活動期バセドウ病眼症患者に対するステロイドパルス療法と眼窩部放射線照射の併用療法、バセドウ病患者の放射性ヨード治療、甲状腺結節の良悪性の鑑別に力を入れています。またプランマー病、甲状腺ホルモン結合タンパク異常症、甲状腺ホルモン不応症、髄様癌などの遺伝子診断も行っています。上記に加えて、難治性バセドウ病及びバセドウ病眼症、抗甲状腺薬による副作用、インターフェロンやアミオダロンなどによる薬剤性甲状腺機能異常などでお困りの症例がございましたら、また周術期の甲状腺機能の管理が必要な場合にはご紹介ください。

「糖尿病性腎症」：

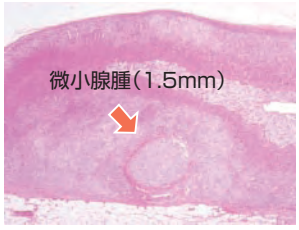
当科は多岐の分野にわたる疾患が多く、糖尿病性腎症はその代表です。糖尿病合併症、特に腎症の進展を抑制するための総合的な診療を行っています。また、腎不全を合併した糖尿病、内分泌疾患による糖尿病やステロイドによる糖尿病患者の全身管理を行っています。ネフローゼの治療に使用されるステロイドによる糖尿病の管理は年間100例を超える実績があります。

当科は上記のように、腎臓、高血圧、内分泌疾患を幅広く診療しています。これらの疾患への適切な診療には、一般医家、市中病院との連携が欠かせません。気軽にご相談いただきたいと思います。

●お問い合わせ先：022−717−7778（外来）
●新患日：水・金

図3：原発性アルドステロン症

30歳の女性の高血圧の原因を調べたところ、原発性アルドステロン症であった。CTなどの画像では腫瘍はみつからなった。副腎静脈サンプリングを行った後、一側の副腎を摘出し、1.5ミリの腫瘍が確認された。手術後血圧は正常になった。



～高度救命救急センターのリアルな毎日をお届けします～ ＊コーヒーブレイク その8

●栄養ノススメその弐

前号に続き栄養のはなしです。前号では、栄養が大切だということを書いたのですが、当救命救急センターでの状況を調べてみると、採血で測定した栄養学的な指標の値が良い人ほど予後が良い(＝早く、よく治りやすい)という結果がでました。当然といえば当然な結果なのですが、数字に表すと説得力があります。またさらに栄養管理の重要性を痛感しました。ただ、栄養をつけるためにたくさん食べて、食べて…、栄養を点滴で入れて、入れて…、というのが良いわけではありません。うまく栄養をとらないと、逆効果になってしまうこともあるのです。栄養も大事ですが、過剰摂取には救急患者さんだけでなく普段からもちろん注意です。

●『般若心教』

先日、患者さんから『般若心教』の写しを額に入れていただきました。僕たち救命救急センタースタッフ(医師、看護師)は、患者さんが重症なときに担当させていただき、その後リハビリ等で転科、転院となってしまうことが多く、元気になった姿をみる機会がほとんどありません。なので、ベットの上で体が思うようにいかないなかで頑張っていた患者さんが、元気になり、救命センターを訪ねていただき、自分の足で立って歩いている姿を見るととても感動し充実感が沸きあがります。その患者さんも、重症外傷後にリハビリを頑張っていた患者さんでした。ちなみに、古くから『般若心教』のご利益で病気が治るという信仰があり、お守りとして所持したり、病気になったときに写経して平癒を祈願したりした人が多いそうです。どうもありがとうございました。

SERIES ／栄養管理室の取り組み

『粘膜障害食』

栄養管理室室長　岡本 智子

東北大学病院では、現在136種類の食種が存在しますが、今回は『粘膜障害食』についてご紹介します。

『粘膜障害食』とは、化学療法や放射線治療によって、口腔内及び食道内粘膜に炎症が起きた状態の患者様を対象としたお食事です。治療によって吐き気や味覚、嗅覚の変化を感じる患者様は多く、また、口腔内の粘膜障害は、咀嚼、嚥下機能にも障害を及ぼし、食欲不振から栄養状態の悪化へとつながるケースは珍しくありません。当院では、実際に患者様のご意見から、調理形態や味付け等を考慮したメニューを考案し提供しています。

具体的に重要視している部分は口当たりです。口腔内に刺激を与えないよう食材は基本的に軟らかい部分（野菜は葉の部分など）を使用します。食材に鋭い角度をつけない切り方の工夫や、野菜を下茹ですることによってアクを取り除くなど下処理も重要です。調理には、豆腐や卵白、すり身等を使用することで喉ごし良く、裏ごしなどの手間を加えて噛まなくても口腔内でつぶせる軟らかさに仕上げます。また、治療によって唾液が出にくくなるため、煮物や蒸し物にはあんをかけたり、汁物をつけることで咀嚼や嚥下のはたらきを助けます。味付けはだしを効かせた薄味とし、「ひらめのゼリー寄せ」「シャーベット」など、提供温度にも配慮しています。見た目を重んじ、彩りからも食欲を感じていただけるよう、この食種に限っては「きざみ対応」を行っていないことも特徴的です。

食種は他にも数多くありますが、様々な症状の患者様に対し、できるだけ食していただけるよう、個別で対応する場合も多くあります。主食や分量の変更、形態の工夫、経腸栄養剤や栄養補助食品の利用など、今後もこのような患者様一人一人の状態に応じた細やかな食事対応が求められていくのだと感じています。

M・E・N・U

【ひらめのゼリー寄せ】

- 形は残しつつ中のひらめは軟らかく煮てあります。
- ゼリー状で喉ごしが良く冷たくさっぱりと召し上がれます。
- 魚の臭みも気になりません。

EVENT

高度救命救急センター主催　市民公開講座開催

平成20年2月23日に仙台市戦災復興記念会館展示ホールにおいて、高度救命救急センター主催の市民公開講座を開催しました。テーマは「知っておきたい救急のこと」です。会場には約80名の一般市民の皆さんが集まってくださいました。

まず、高度救命救急センター部長の篠澤洋太郎先生から、救急医療のしくみについての講演があり、その後救命センター講師田熊清継先生より「おうちでできる救急手当て」について症例レポートを交えての講演がありました。参加者からは、自分の住んでいる街の救急体制を知ることも必要だと実感できた、具体的な救急処置の方法も知ることができ大変わかりやすかった等と好評でした。

最後に、名古屋掖済会病院救命救急センター岩田充永先生に「家族で知ろう転ばぬ先の予防医学」高齢者救急という演題で講演していただきました。高齢者救急について一般市民の皆さんにもわかりやすく話をしてくださり、会場に集まった市民の皆さんも熱心に耳を傾けていました。

講演の先生方の分かり易いお話と皆さんから多くのご質問やご意見をいただき、大変ありがとうございました。この貴重な体験を今後の市民公開講座や日常診療に役立ててまいりたいと思います。

INFORMATION

けんこう情報館に「図書コーナー」オープン

3月18日（火）東北がんプロフェッショナル養成プランの事業のひとつとして、外来棟1階の「けんこう情報館」の奥に「図書コーナー」を新設しました。がんに関する書籍を中心として、一般向け医学書、雑誌等を約400冊取り揃えています。

けんこう情報館には毎日多くの方が訪れ賑わっていますが、図書コーナーはけんこう情報館の奥に場所を構えておりますので落ち着いた雰囲気の中で読書をすることができ、患者さまに好評です。

SERIES ／認定看護師紹介

認定看護師とは、「看護ケアの広がりと質の向上を図るために、日本看護協会が認めた特定の分野における熟練した看護技術と知識を有する看護師」をいいます。現在は17の認定分野があり、当院では、13分野16名の認定看護師が「実践」「指導」「相談」の役割を果たすべく活動を行っています。今回は、糖尿病看護認定看護師の活動を紹介します。

第6回：糖尿病看護認定看護師

西14階病棟　**由浪　有希子**

世界の糖尿病人口は２億3,000万人以上、糖尿病に関連した病気で死亡する人は300万人/年にも上り、年々増加しています。これは、エイズウイルス(HIV)感染による死亡数と同程度と言われています。

わが国でも成人の6人に1人が糖尿病か、糖尿病を強く疑われる状況にあり、糖尿病の発症予防と合併症予防のケアが必要です。

私は、現在、西14階病棟(腎高血圧内分泌科、糖尿病代謝科)で勤務しております。当病棟に入院する患者様の多くは、糖尿病と言われてから長い時間が経過し、糖尿病網膜症の手術を控えての糖尿病のコントロール、糖尿病腎症が進行し透析の準備をしたり、糖尿病足病変(壊疽や潰瘍)の治療をする患者様です。病状が進行し治療が複雑になった患者様は、家庭や地域で生活していくために悩みや不安が多くあります。病棟看護師や他職種と共に悩み、考え、話し合い、患者様の思いを尊重した看護を提供することが認定看護師の役割です。

由浪　有希子
糖尿病看護認定看護師

当病棟に入院してくる患者様の看護をしていると、合併症を予防するケアの重要性を強く感じます。中でも糖尿病足病変(潰瘍、壊疽)は、足病変のリスク要因を把握し、専門的なフットケアと患者様のセルフケアにより予防することが可能です。本年4月から診療報酬改定により「糖尿病合併症管理料」が算定できるようになりました。糖尿病の患者様の足に関心を持ち、爪切や靴の正しい選び方などのフットケアを提供することが求められています。

現在、当院では、形成外科、皮膚科、血管外科、整形外科、リハビリテーション科の医師、フットケアのできる看護師が足の治療とケアを行うフットセンターを開設する準備をしています。私もそこの一員となり、多くのことを学び、実践させていただいています。

また、昨年7月から当病棟では、医師、看護師、薬剤師それぞれが糖尿病教室をリニューアルして開催し、糖尿病を自己管理するための知識と情報を患者様、家族に提供しています。これからは、患者様が参加し、患者様一人ひとりの経験が語られ、励まし合える糖尿病教室の企画、開催を目指していきたいと考えています。

SERIES

院内探訪！　～院内学級生徒によるモザイクアート～

最近、病院のホスピタルモールでひときわ注目を集めている絵があります。スーラ作『グランド＝ジャット島の日曜日』という作品をモザイクアートにしたものです。

見れば見るほどすばらしい作品。これは取材するしかない！と、院内にある仙台市第二中学校東北大学病院分校の宍戸教諭にお話を伺いました。

Q：分校の生徒さんは何名くらいいるのですか？
A：入れ替わりはあるものの１年生から３年生まで常時10名前後の生徒が勉強をしています。

Q：モザイクアートについて教えてください。
A：まず下絵を書き、手を使って細かく割ったカラータイルを、色を確認しながら、ピンセットを使って木工用ボンドで貼っていく、という工程を繰り返して完成させる芸術作品です。非常に根気がいります。

Q：この作品はいつ、どのようにして作られたのですか？
A：美術の授業の中で作りました。
去年の５月に生徒全員で製作を開始し、途中、生徒の入退院があるので、リレーのように次々つなぎ、９ヶ月かけて今年の１月に完成させました。
美術の時間だけでは足りず、放課後に集まって作業をしたこともありました。

宍戸先生から、作業中の様子を写した写真をいくつも見せていただきました。

全員で協力して１つの作品をつくっている真剣なまなざしの生徒さんたちの姿をみて、ますますこの絵が輝いて見えました。宍戸先生、ありがとうございました。

新患日一覧

※受付時間は8:30〜11:00までとなっております。（皮膚科は10時まで、眼科は11時30分までとなっておりますのでご注意ください）
※（　）内の電話番号は各診療科外来です。

（H20.4現在）

循環器内科（022-717-7728）	月〜金	移植・再建・内視鏡外科（022-717-7742）	食道外科：水・木	小児科（022-717-7744） 小児腫瘍科（022-717-7878）	月〜金
感染症科（022-717-7766）	月・水・金		血管外科：月・火	遺伝科（022-717-7744）	月〜金　※予約制
腎・高血圧・内分泌科（022-717-7778）	水・金		移植・肝臓外科：火・金	小児外科（022-717-7758）	月〜金
血液・免疫科（022-717-7730）	水・金	乳腺・内分泌外科（022-717-7742）	乳腺外科：月・水・木	皮膚科（022-717-7759）	月〜金　受付時間(8:30〜10:00)
糖尿病代謝科（022-717-7779）	火・金		甲状腺外科：火・金	眼科（022-717-7757）	月〜金　受付時間(8:30〜11:30)
消化器内科（022-717-7731）	火・金	心臓血管外科（022-717-7743）	木・金	耳鼻咽喉・頭頸部外科（022-717-7755）	月・水・金
老年科/漢方内科（022-717-7736）	老年科：水　※もの忘れ外来は完全予約制	整形外科（022-717-7747）	月〜金	肢体リハ（022-717-7751）	月・水・木・金
	漢方内科:火・水　※予約制	形成外科（022-717-7748）	月・水・金	運動リハ（022-717-7751）	月・水・木・金
心療内科（022-717-7734）	月・水・金	麻酔科（022-717-7760）	月・水・金　※術前相談のみ	内部リハ（022-717-7751）	月・水・木・金
呼吸器内科（022-717-7875）	月・水・木・金	緩和医療科（022-717-7768）	月・木　※予約制	高次リハ（022-717-7751）	月〜金
腫瘍内科（022-717-7879）	月・火・木	呼吸器外科（022-717-7877）	月・水・金	放射線治療科（022-717-7732）	月、木、金　※予約制
肝・胆・膵外科（022-717-7740）	一般新患：月・水・金	婦人科（022-717-7745） 産科（022-717-7745）	月〜金	放射線診断科（022-717-7732）	CT・MRI検査外来　月〜金 インターベンション・画像診断外来　月・木
	膵臓疾患：月	泌尿器科（022-717-7756）	月・火・水・金		
	肝胆道疾患：金	神経内科（022-717-7735）	火・金	加齢核医学科（022-717-7880）	火・水・木
胃腸外科（022-717-7740）	一般新患：月・水・金	脳神経外科（022-717-7752）	月・木・金	総合診療部（022-717-7509）	月〜金
	胃腸悪性疾患：水	脳血管内治療科（022-717-7752）	火・金		
	炎症性腸疾患：木	精神科（022-717-7737）	月・水・金		

INFORMATION

●外来診療の変更について

感染症科（旧:感染症・呼吸器内科）

4月1日より**初診日が変更**となりました。

●変更前　月・火・水
▼
●変更後　月・水・金

麻酔科

4月1日より**ペインクリニック外来が閉鎖**となりました。

緩和医療科

4月1日より**初診日・再診日が変更**となりました。

●変更前　緩和ケアセンター入棟相談　月・火・木
▼
●変更後　緩和ケアセンター入棟相談　月・木

●核医学検査受付窓口の変更について

5月1日よりPET検査、核医学検査の受付窓口が地域医療連携センターへ変更となりました。

●お問い合わせ：**地域医療連携センター**
TEL022-717-7131

核医学検査ご予約方法：

1. 地域医療連携センター宛に「診療予約申込書」をFAXにてご送付ください。
   ※コードナンバー 73の該当する検査に丸をつけてください。
   ※PET検査の場合、「診療予約申込書」と一緒に「FDG PET検査依頼書」もご送付ください。
2. 予約日を調整し15分以内に予約票を返送致しますので、患者さまにお渡し願います。
   ※事前に022-717-7131へお電話を頂ければ空き状況をお知らせ致します。

編集後記

冒頭でご紹介いたしました「地域医療連携協議会」に於いて、仙台市医師会副会長から「これまでベールにつつまれていた大学病院の診療内容が、『診療のご案内』や『With』の発行によりわかるようになったと医師会の間で評判です」とのお言葉をいただきました。この言葉を胸にこれからも機能分化促進のため、わかりやすい広報活動を心がけて行きたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

（S.W）

● 編集・発行　東北大学病院　地域医療連携センター　TEL：022-717-7131　FAX：022-717-7132
E-mail：ijik002-thk@umin.ac.jp
ご意見、ご要望がございましたら、地域医療連携センターまでお願いいたします。

PRINTED WITH SOY INK　再生紙を使用しています。